# さくらじまの海

2025年 第28巻第4号
109

お客さまをお出迎え

水族館で働く人たちとその意外なお仕事 …… 2.3
いるかの時間・あざらしの時間　「飼育員の『ピカピカ掃除大作戦』!」 4
ここがみどころ「2階：黒潮大水槽　ヨコヅナマルコバン」 …… 5
錦江湾のなかまたち「105．カブトクラゲ」 …… 5
アクアラボ「魚のウロコ　どんなカタチ？」 …… 6
特別企画展「のぞいてみよう　海藻の世界」 …… 6
野間池沖鯨類目視調査レポート …… 7
いおワールド通信 …… 8
鹿児島 未知の魚を発見！「No. 38　ヤッコエイ」 …… 8

いおワールド かごしま水族館

# 特集 水族館で働く人たちとその意外なお仕事

## ～その１～

本誌「さくらじまの海」をお送りしている小中学校の皆さまにアンケートを行った結果、「水族館で働いている人たちのお仕事が知りたい！」とのご意見を多くいただきました。そこで、今回から水族館でのさまざまな仕事を紹介していきます。第１回目は、あえて飼育以外の事務と接客のスタッフにスポットを当てていきます。

### 水族館の事務って？

「水族館で働いています」と言うと、ほとんどの方から「お魚にえさとかあげているんですか⁉」と聞かれます。多くの方にとっては水族館に事務のスタッフがいるというイメージがあまりないようです。かごしま水族館の事務業務は、大きく管理部門と企画営業部門に分けられます。

### 何を管理しているの？

まずは管理部門です。ここでは何を管理しているのでしょうか？それは人とお金です。かごしま水族館ではアルバイトも含めると約１００名のスタッフが働いています。そのスタッフへの給与の支払いや労務管理、新たなスタッフの採用などを行います。入館料の集計や飼育している生きもののえさ代など取引先への支払いも大事な仕事です。ちなみに当館では１年間のえさ代が約２，０００万円かかります。生きものの生命を維持するために水槽の循環を止めることができないため、最近の電気代や燃料費の高騰には頭を悩ませます。意外な一面を紹介すると、水族館も一つの会社ですので、毎年３月に来年度の予算、６月に前年度の決算の承認を受ける必要があり、この時期は大忙しとなります。ここで水族館の事業や予算が定まり、毎日お客さまをお迎えできることに繋がっています。

予算の執行状況を見ながら打合せ

### お客さまの開拓

次に企画営業部門です。こちらは、よりお客さまに近い場所で仕事を行っています。夏休みなどのイベントの企画、それらを発信するSNSやホームページの運用などがイメージしやすいかもしれません。これらの仕事は生きものとの関わりが深いため、飼育員とチームを作って計画、実施しています。修学旅行やツアー客などの誘致も大きな仕事のうちの一つです。新幹線を利用する修学旅行や団体ツアーを誘致するため、学校や旅行代理店に直接出向いて営業を行います。また、海外客誘致のため、鹿児島空港と直行便のある上海、ソウル、香港、台湾へは、県協同のチームに同行してセールスを行うこともあります。その他にもテレビなどメディアの取材対応や館外で実施されるイベントへのブース出展、アミューズメントショップの運営なども行っています。

夏休みミニコンサート

海外の旅行社へのセールス

### アミューズメントショップの運営

アミューズメントショップの運営はショップ担当のアクアキャストが担っています。レジでのお会計や商品の陳列、棚卸しなどはもちろんのことクリスマスにはぬいぐるみのくじ引き、お正月には福袋など季節ごとのイベントや商品づくりも行います。時には、新商品の選定やオリジナル商品の開発のために、仕入業者と打合せをすることもあります。売れ行きをチェックしながらの商品の入れ替えや、GWや夏休みなどの繁忙期における商品の仕入れの調整などは、入館者数の予測や経験による勘も必要です。また、お客さまをご案内するガイドツアーやバックヤードツアーなどのイベントも担当しますので、生きものに関する知識の習得や飼育員との情報交換も欠かせません。

商品の売れ行きをチェック

箱がジオラマになるオリジナルのアイシングクッキー

### 水族館のなんでも屋

皆さまが水族館で最初に接するのが、チケット販売や改札を担当するアクアキャストです。唯一、すべてのお客さまと接するスタッフなので、水族館の印象を左右する大事なポジションでもあります。総合案内所では館内の順路や観光案内をはじめ、お客さまのお問い合わせの窓口となりますので、なんでも屋と言えるかもしれません。最近では海外のお客さまも多いので簡単な英語やタブレットを用いたご案内も増えてきました。その他、館内アナウンスやベビーカーの貸出、年間パスポートの作成なども行っています。アミューズメントショップスタッフ同様、ガイドツアーやバックヤードツアーのイベントも行いますが、その他にも「ジンベエザメの食事の時間」や「あざらしの時間」なども毎日交代で担当しているため、１日のうちに何度も館内を行ったり来たりすることもあります。

館内アナウンス

バックヤードツアーで黒潮大水槽のろ過槽をご案内

### おわりに

さて、今回は普段スポットが当たりにくい飼育員以外のスタッフとその仕事を中心に紹介しました。その他にも、生きものの解説やお身体の不自由な方を案内してくださるボランティアの方々、レストランや清掃、警備、設備の管理を担当する社外の皆さまの活躍があって日々の水族館の運営が成り立っています。これは水族館だけではなく、皆さまの職場や学校でも同じではないでしょうか。普段あまり気にしていない所に目を向けてみると意外な方が汗を流す姿に気がつくかもしれません。

（三重　拓）

いるかの時間
あざらしの時間

# 飼育員の「ピカピカ掃除大作戦」！

飼育員と聞いて、みなさんはどんな仕事を想像しますか。飼育員の大事な仕事の一つに掃除があります。今回は、イルカとアザラシを担当する飼育員の「掃除」について紹介します。

なぜ飼育員の仕事として掃除が大切なのでしょうか。それは、お客さまに生きものを見ていただくためと生きものが健康に安全に日々を過ごすためです。掃除をする場所は、飼育スペースとその他の場所があります。

飼育スペースは、館内イベント「いるかの時間」が実施されるイルカプールです。イルカたちの排泄物やえさの食べかすなどにより、ぬめりが出てきたり、藻が生えたりします。イルカプールの掃除では、ダイバーがプールに潜り、スポンジで底や壁、アクリルガラスの掃除を行います。人より体が大きく力も強いイルカと同じプールに入って掃除をすることは、危険な作業です。イルカの様子も観察しながら、１時間程度掃除を行います。終わった後には、力強くスポンジでこすった腕はパンパンになります。

もう一つの飼育スペースは海とつながる屋外のイルカ水路です。日中にイルカを展示しているエリアですが、この場所も毎日掃除を行っています。イルカは好奇心が強く、ゴミでも何でも飲み込んでしまいます。それが原因で病気になったり、最悪の場合死んでしまったりする可能性があります。イルカをイルカ水路に展示する前に、ダイバーが水路に流れ込んできたゴミや海底に埋もれたゴミをひろいます。水面ではもう一人の飼育員が長い網を使用して浮いているゴミを回収します。掃除が終了し安全が確認できてから、イルカをイルカ水路に移動させます。飼育員は暑い日も寒い日も一生懸命掃除を行っています。

イルカプール潜水掃除の様子

次に紹介するのは、飼育スペースとは少し離れた場所にある調餌室です。この場所は毎日朝と夕方に掃除を行います。生きものが病気になる時、口にするえさが原因になることもあります。えさを保管し準備する場所の衛生管理はとても大切です。魚の血汁などから細菌を増やさないように、作業をする台、床、飼育員がよく触る冷蔵庫や冷凍庫の取手等、洗剤を使って隅々まで掃除をします。

調餌室の掃除の様子

今回紹介した場所の他にも、掃除をする場所はたくさんあります。生きものたちが健康に安全に日々を過ごせるように、私たち飼育員は今日も思いを込めて掃除を行います。私たち飼育員がピカピカに掃除をした水槽で生きものたちをじっくりと観察してみてください。

（村岡　秀）



# ここがみどころ

## ２階　黒潮大水槽
## ヨコヅナマルコバン

ひれが黄色っぽく見えるヨコヅナマルコバン

ヨコヅナマルコバンは台湾やオーストラリア北部近海でのみ記録のある種でした。しかし、近年、鹿児島でもマルコバンに混ざって水揚げされることが分かり、２０１９年にヨコヅナマルコバンと命名されました。

現在、黒潮大水槽では肝属郡肝付町の定置網で漁獲された２匹のヨコヅナマルコバンを展示しています。この定置網ではマルコバンが漁獲されることもあり、両者は特に区別されることなく水揚げされていました。マルコバンとヨコヅナマルコバンは見た目がとても似ています。ひれの長さや色など小さな違いしかないため、パッと見ただけでは見分けるのが難しいのです。マルコバンは５０㎝、ヨコヅナマルコバンは１mほどに成長しますが、ひれはマルコバンの方が長く伸びます。黒潮大水槽で観察すると、マルコバンのひれは黒っぽく、ヨコヅナマルコバンのひれは黄色っぽく見えます。

ひれが黒っぽく見えるマルコバン

黒潮大水槽ではヨコヅナマルコバンとマルコバンの両方を見ることができます。ひれの長さや色の違いに注目しながら、見比べてみてください。

（中村政之）

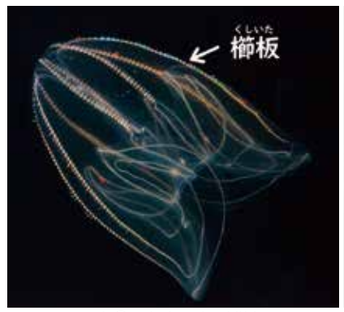
KINKO-BAY
錦江湾のなかまたち

## 105. カブトクラゲ

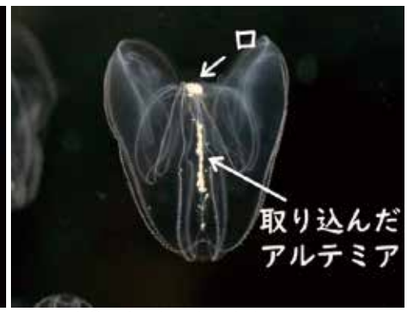
カブトクラゲはミズクラゲなどのいわゆる「刺す」クラゲとは違い、毒を持たない「刺さない」クラゲのなかまです。カブトという名の通り武士の兜のような形をしていることが名前の由来です。体の表面に櫛板という泳ぐための器官を持っています。キラキラと虹色に輝く光はとても美しいですが、この光は自ら発光しているのではなく、櫛板が光を反射することで光って見えているのです（写真①）。鹿児島の海では年間を通して見ることができ、かごしま水族館外のイルカ水路に現れることもよくあります。当館では主にアルテミアという小さな甲殻類をえさとして与えて飼育していますが、えさを与えすぎると消化できず吐き出してしまい、逆にえさが足りないと体が徐々に縮んでしまうという難しい面もあります（写真②）。

３階のクラゲ回廊で展示することもありますので、体の動きや櫛板の反射の様子をじっくりと観察してみてください。

（早友翔星）




写真①　虹色に輝く櫛板




写真②　食べたえさがすけて見えている

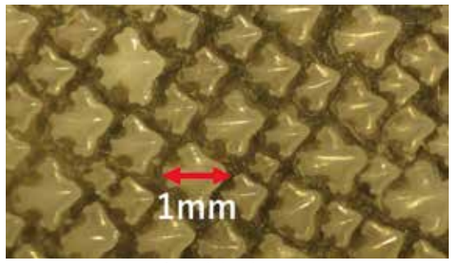
# アクアラボ

## 魚のウロコ、どんなカタチ？

魚は体の表面にウロコ（鱗）を持っています。魚を調理したことのある方は台所中に飛び散ったり、手にくっついて取れなかったりとあまり良い印象はないかもしれません。しかし、そんなウロコにも実は体を守る、栄養を蓄える、体内の塩分を一定に保つなど、重要な役割があります。魚たちが生きていくためには、ウロコは必要不可欠なのです。

魚の種類によってウロコの形や大きさはさまざまです。アマゾン川に生息するピラルクーは硬くて大きなウロコが特徴です。この頑丈なウロコでピラニアやカンディルなどの獰猛な魚たちから身を守っています。一方、ジンベエザメやネコザメなどのサメのなかまはとても細かいウロコを持っており、「サメ肌」とも呼ばれます。サメ肌には水の抵抗を減らす役割があり、このおかげでサメたちは水中でも速く泳ぐことができます。

ピラルクーのウロコ



ネコザメのウロコ

このように、ウロコには魚たちが厳しい自然界で生き残ってきたヒミツが隠されています。魚たちを観察するときにはぜひウロコにも注目してみてください。「目からウロコ」な発見があるかもしれません。

（石原　祥太郎）

## 特別企画展

### のぞいてみよう　海藻の世界

２０２５年３月１４日(金)～６月８日(日)

ワカメやノリ、アオサなど私たちの身近に昔からある海藻。では、海の中で生きている海藻を目にしたことはあるでしょうか。

今回の特別企画展では「生きもの」としての海藻を紹介します。どのような形をしていてどのような環境に生育しているのか、種はどのように分けられるのか、生まれてから枯れるまで、どのように成長していくのか…。また、他の生きものとどのような関わりがあるのか、まるで実際に海の中へ潜っているかのように紹介します。生きている海藻は色鮮やかでその形と色の多様さには目を見張るものがあります。それぞれの種で全く異なる形をしているのはもちろん、同じ種でも生えている場所によって形や色が変わってくることもあります。じっくりと観察して違いを感じてみてください。

また、海藻の押し葉標本やハーバリウムなどのアートも会場を飾ります。押し葉アートはすべて飼育員の手作り！海藻の形、色をうまく使っていろいろな生きものを作っています。私たちの力作をぜひご覧ください。

いろいろな生きものと密接に関わり合い、そして支え合い生きている、海の中になくてはならない存在。そんな海藻の世界をのぞいてみませんか。

（新山美侑）



# 野間池沖鯨類目視調査レポート

薩摩半島南西部に位置する野間池の沖合は多様な鯨類が出現する海域として知られています。この海域では１９９６年から２００３年にかけては野間池漁協（現在の鹿児島県漁業協同組合南さつま野間池支所）によって夏～秋季にホエールウォッチングが行われており、カツオクジラ（当時はニタリクジラとされていました）や小型のハクジラ類が観察対象となっていました。しかし、現在はもろもろの事情によりホエールウォッチングは実施されておらず、近年の野間池沖海域にどのような鯨類が来遊しているかはよく分からない状況です。そこで、現在の鹿児島県内の鯨類の生息状況を明らかにするために、カツオクジラを中心とした鯨類目視調査を実施することにしました。調査にあたって野間池の漁協の方々と打合せをしたところ、野間池沖にやって来るクジラたちを再び観光資源にしたい想いもあるようで、快く調査に協力していただけることになり、以前ホエールウォッチングを実施されていた方が船を出してくださることになりました。

２０２４年８月６日、野間池沖海域での鯨類目視調査を実施しました。当日は晴れで海はべた凪、絶好の条件の中で当館職員３名を乗せた調査船は野間池漁港から出港しました。港を出てすぐに数頭の小型のイルカ類を発見しましたが、残念ながら見失ってしまい、写真を撮ることはできませんでした。その後、沖合に出て船長のこれまでの経験に基づく実績ポイント（野間池と下甑島の間にある水深４００～５００ｍの地点）を重点的に探しましたが、なかなか鯨類は見つかりません。潮の流れが変わってからもう一度実績ポイントを探してみると、海面が騒がしくなっており、カツオの群れを発見しました。カツオがいるということは、カツオが追っている小魚を狙って、その周りにイルカやクジラがいる可能性が高いため注意深く観察しました。すると、突然大きなクジラが現れました。推定体長１０ｍのカツオクジラで、その巨体に調査職員一同大興奮！しばらくカツオクジラの写真と動画を撮影し、十分なデータが得られた後に周辺を捜索したところ、カツオドリが集まっている場所がありました。そこに向かってみると今度はハシナガイルカの大群を発見しました。あまりにも数が多すぎて何頭いるかは分かりませんでしたが、１０００頭規模の群れのようにみえました。ハシナガイルカはイワシのなかまと思われる小魚を追っていて、その小魚を空からカツオドリが狙っていたようです。一部のハシナガイルカは船の横について泳ぎ、周辺では回転しながら飛ぶスピンジャンプなどさまざまな行動が観察されました。小魚を起点として、それを捕食する中型魚のカツオや海鳥のカツオドリ、そして小型鯨類のハシナガイルカが集まり、さらには大型鯨類のカツオクジラがやって来る、大海原の生態系を目の当たりにすると得も言われぬ感動がありました。

今回の調査エリア

カツオ（上）とカツオクジラ（下）

ハシナガイルカ

多様なジャンプをするハシナガイルカ

カツオクジラ

調査の様子

今回の調査により野間池沖海域は現在もカツオクジラやハシナガイルカといった鯨類が夏場に摂餌海域として利用していることが分かりました。そして、多くの海洋生物を支える鹿児島の海の豊かさと鯨類の種多様性の一端が明らかになりました。今後も鹿児島県内での鯨類調査を継続していくことで、更なる発見があることを期待しています。

（中村潤平）

こんなこと あんなこと

# いおワールド通信

## １８００万人セレモニー

かごしま水族館は令和６年１２月２７日に来館者数１８００万人を達成しました。これも日ごろから当館を応援してくださる皆さまのおかげです。記念すべき１８００万人目の来館者は日置市からお越しの３歳の井上善さんでした。当日開催された記念セレモニーではくす玉割りに続いて、下鶴市長より記念証と記念品のジンベエザメのぬいぐるみが贈られました。これからも皆さまに愛される水族館を目指して職員一同頑張っていきますので、引き続き応援をよろしくお願いします。

（平野　慎一郎）

## 第１２回フォトコンテスト

今年度も恒例のフォトコンテストを実施しました。４月１日～８月３１日の期間、募集を行い、４２２点の応募がありました。審査の結果、３１点の作品が見事入賞を果たしました。１２月７日に表彰式を行い、館長より表彰状と記念品が授与されました。最優秀賞には南伸吾さんの作品「光の中へ」が選ばれました。水槽に降り注ぐ光の中を自由に泳ぐハンドウイルカを捉えた素晴らしい作品です。入賞作品は１月３１日まで館内で展示しました。また作品のいくつかは当館のオリジナルカレンダーに掲載し、表紙や各月を飾っています。ご応募いただいた皆さま、ありがとうございました。

（三重　拓）

光の中へ（最優秀賞）

## シリーズ 鹿児島 未知の魚を発見！

### No. 38 ヤッコエイ

アカエイ科のヤッコエイには長らく*Neotrygon orientalis*という学名が適用されていました。しかし、日本産と東南アジア産のヤッコエイは、それぞれ遺伝的にも形態的にも異なる別種であり、両種は異所的に分布することが明らかになりました。本学名のタイプ産地（新種記載の基になった標本の産地）がインドネシアであることから、真の*N. orientalis*は東南アジアの種に適用されます。日本産ヤッコエイには適用すべき学名がないことから、２０２４年８月に*Neotrygon yakkoei*として新種記載されました。国内で既知の種が実は新種であったという例は多々ありますが、ヤッコエイもその一例となりました。ヤッコエイは日本固有種で、鹿児島県全域を含む北海道から沖縄までの沿岸域に広く分布します。本種の特徴である背中の青色斑の数は国内で東方に向かうほど数が少なくなることが分かりました。

（鹿児島大学総合研究博物館　館長　本村浩之）

ヤッコエイ　*Neotrygon yakkoei*

### 編集後記

ところどころから鳥のさえずりが聞こえる季節が始まろうとしています。まだ海の水は冷たい季節です。それでも海の中では着実に季節が移ろいでおり、海藻類が成長していく季節でもあります。『行く春や鳥啼き魚の目は泪』と詠んだのは松尾芭蕉のようですが、それだけ人にとって、この季節は古くからいろいろな意味がある季節だということでしょう。自然は唯、自然であるのみというのに人の感性とは不思議なものです。今日も桜島は麗らかな空を背景に綺麗に見えます。心なしか揺らいで見えるのは、はてさて水面に映る桜島を見ていたせいでしょうか、私の目に涙がたまっていたせいでしょうか。

（濵野）

いおワールド かごしま水族館

さくらじまの海　2025年第28巻 第4号 通巻109号
（2025年3月発行）
編集・発行／公益財団法人鹿児島市水族館公社
〒892-0814 鹿児島県鹿児島市本港新町3番地1
TEL.099-226-2233　FAX.099-223-7692
【ホームページ】https://ioworld.jp
印　　刷／株式会社イースト朝日